

2009年1月5日

各位

オリックス株式会社

## オリックスグループ 2009年 年頭所感

オリックス株式会社（本社：東京都港区、社長：梁瀬 行雄）は、本日午前9時より、オリックスグループ合同の年賀式を行いました。ここに、グループ CEO 宮内 義彦の年頭所感をご紹介します。

### 【2009年 年頭所感（要約）】

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、誰もが予想しえないスピードで世界経済が悪化した一年となり、米国発の金融危機は、加速度的な信用収縮というかたちで実体経済にも瞬く間に悪影響を及ぼしました。

日本においても、日経平均株価の大幅下落や市場での資金詰まりが企業活動にマイナスの影響を与え、過去最高の倒産件数を記録するだけでなく前期黒字であった企業までもが倒産するなど信用収縮の影響は甚大なものになりました。

今後の予測としては、一番早くて今年の末頃に希望の光が見え始めるのではないかと感じていますが、長い調整期間の後も「危機前の姿」に戻ることはないでしょう。オリックスも荒波後の世界でいかに存在感を発揮するかということを考え、行動を始めなければなりません。すなわち、荒波を抜けた後の姿をイメージしながら、勇気を持って行動してほしいと思います。

今回の金融危機は、欧米の金融機関を中心にマネーの異常膨張に依存しながら実体経済を引っ張ろうとしたことが招いた結果であり、サブプライムローン問題と同様、実需を無視した取引と過大なレバレッジを続けたことがあのような大きな損失を招きました。これからはレバレッジをかけた金融商品が限定されていくでしょうから、今後は我々がやってきた「相対取引」が見直されてくるものと予想しています。

そこで今年は、これまでも推進してきた新しいビジネスモデルへの移行スピードをさらに加速させることを皆さんにお願いしたいと思います。

大きな方向性として、「金融」「金融+サービス」「運用・運営」の3本柱で進んでいくことを改めて確認してください。

「金融」については、リスクとリターンのバランスを重視しながら収益性と安全性を高めていくことを目指します。

「金融+サービス」については、自社の専門性を生かしながら、これまでの手数料（フィー）およびコミッションを重視したビジネスに加え、外部の資金も活用するようなアライアンス戦略を推進していきましょう。

「運用・運営」については、ここまで高めてきたノウハウとチームワークをさらに活用して自らが行う運営事業に注力するなど、安定的で高収益な事業の構築を進めていきましょう。

私たちには、新しいサービスやチームワークで、今まで何度も大嵐を乗り越え、さらに一層強靱な体制を作り上げてきたDNAが宿っています。

今回も皆の知恵を結集させ、嵐を抜けた後には素晴らしいバランスシート、高い顧客層と専門性を持った「一段上のオリックス」になっていることを目指したいと思います。

オリックスは現在、グループで約2万人の従業員、かつ世界26ヶ国に進出という広範囲な規模になりましたが、今年は改めて全グループ一丸となったチームワークを確認するまたとない機会でもあります。

全世界で働く社員が「オリックスで働いてよかった」と思えるような働き甲斐のある職場作りや、新しい仕事や前向きな仕事にどんどん取り組んでいけるような雰囲気作りなど、全員が前向きな意識をもって今年一年取り組んでいただきたいと思います。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

オリックス株式会社

社長室 広報担当（横井・日野原）

電話：03-5419-5102